

世界に羽ばたけ！ 米山学友^②

パレスチナにロータリーの息吹を

新クラブ設立の立役者として

パレスチナ、その事実上の首都・ラマラに昨年ロータリークラブ(RC)が創立され、5月30日の認証状伝達式にはジョン・ケニーRI会長(当時)をはじめ、150人以上のロータリアンとゲストが集まりました。どの顔も喜びに輝くその中に、今回の立役者の一人、米山学友のジェフリー・ベアさんの姿がありました。計画当初から中心的な役割を果たしたその功績をたたえ、ケニーRI会長からポール・ハリス・フェローの称号を贈られた彼(=写真右)は、壇上から次のように述べました。

「日本に留学していたとき、私は幸運にも日本のロータリーから奨学金をいただき、そのおかげで学業を修め、願った仕事に就くことができました。パレスチナの若者にも同じ機会を与えたい。その思いが私を駆り立ててきました。ラマラにRCができた今、パレスチナの若者たちがロータリーの支援で、日本など外国で学ぶ機会を得て、やがて大陸をつなぐ懸け橋となり、社会をつくる人材となってくれることを期待しています」

盛大な拍手を送る人々の中に日本のロータリアンはいませんでした。彼の感謝の心は、真っすぐに日本のロータリーに向けられていたのです。

日本で環境工学を学び、社会起業家に

アメリカの大学で生化学を専攻し、製薬会社に就職したベアさんは、病気の発生源として「水」問題に関心をもつようになり、水質浄化などの環境工学を専門的に研究することを決意。1980年代後半に、日本政府が環境

問題の解決に向けた応用研究や産業開発に力を入れていたことから、最先端の研究を目指して来日。筑波大学研究生を経て、1992年、東京大学大学院に入学しました。米山記念奨学生となったのは、その翌年のことです。

「世話クラブの東京東村山RCの例会に出るたびに、会員の皆さんは私を歓迎し、日本での生活を気遣ってくれました」と、ベアさん。「ロータリーの存在は知っていましたが、ロータリアンになることがどのような意味をもつのか、本当には理解していませんでした。日本のロータリアンと交流する中で、また、東京東村山RCの活動から、「超我の奉仕」というロータリー精神の大切さを教えてもらいました」と振り返ります。

卒業後は、アメリカ・ジョージア州商務局東京事務所に入局。数年間、企業誘致を担当した後、日本やアメリカ企業との合弁事業の会社を設立するなど、政府・企業との対応や経営の経験を積み、帰国しました。そして2002年、紛争解決の手段として環境プロジェクトを推進するNGO「環境外交センター(CED)」を首都ワシントンに設立。その最高経営責任者(CEO)に就任して、社会起業家としての第一歩を踏み出したのです。

ロータリーとの2度目の出会い

設立以来、CEDはプロジェクトの中心をヨルダン川西岸とイスラエルに置き、ベアさんも現地とワシントンの間を精力的に行き来する日々を送っています。そんな彼を再びロータリーと結びつけたのは、CED共同創設者のテッド・ベケット氏でした。

コロラドスプリングスRC会員のベケット氏は、パレスチナの人々と、ロータリーの親善や「四つのテスト」を分かちあいたいと希望していました。そこで、ベアさんに「ラマラにロータリークラブをつくることは可能だろうか」と相談したのです。ラマラにはCEDの事務所があり、現地で各界のリーダー層に多くの知己を得ていたベアさんは、確信をもって「可能です」と答えました。

2009年1月、ベケット氏の求めに応じ、ベアさんはコロラドスプリングスRCで、パレスチナの最新事情に



昨年6月にカナダ・モントリオールで開かれた国際ロータリー（R I）年次大会の開会セレモニーで、各国の国旗入場の列に、初めてパレスチナの旗が加わりました。この地にロータリーが復活したのは実に30年ぶり、パレスチナ自治政府の下では初のロータリークラブ誕生という快挙の陰に、米山学友ジェフリー・ベアさんの献身的な働きがありました。彼をこの仕事に立ち向かわせたものは何だったのでしょうか。



ついで卓話を行い、米山記念奨学生として日本のロータリーの支援を受けたこと、ラマラの若者にも同じチャンスを与えたいとの思いを語りました。

この卓話をきっかけに、ラマラRC設立に向けた取り組みが本格的に始まりました。コロラドスプリングスRCに名誉会員として迎えられたベアさんは、それから半年間、現地の状況を随時報告するとともに、ラマラのリーダー層に働きかけて、新クラブの会員候補を募るために奔走しました。同年夏、フィリップJ.シルバースRI理事（当時）が現地視察に加わり、会員候補と面談。これで一挙に弾みがつき、ヨルダンの協同提唱クラブの全面的な協力も得て、ついに2010年5月18日のRI理事会で、ラマラRCの加盟が認められたのです（詳細は本誌2010年12月号横組みP16～19「パレスチナ自治区にロータリー誕生」参照）。

日本のロータリアンのように手を差し伸べたい

“疑念”が常につきまとったクラブ創立に向けた取り組みの中で、かじ取り役を務めたベアさん。その原動力を問われるとき、彼はいつも「日本のロータリアンに手を差し伸べてもらい、世話クラブの皆さんに手厚い支援をいただきました。だから、私も同じようにほかの人に手を差し伸べたいのです」と語っていました。

ベアさんは自らの仕事においても、ロータリーの理想を追い求めています。

プロフィール

ジェフリー・ベア さん

（1993 - 94 / 東京東村山RC）
アメリカ・アラバマ州出身。東京大学大学院で都市環境工学を専攻し、1994年に修士号取得。アメリカ・ジョージア州商務局東京事務所勤務などを経て、2002年、環境外交センター設立。数多くの環境プロジェクトを遂行中。コロラドスプリングスRC名誉会員。



「私の仕事上の目標は環境や教育に焦点を当て、健康の改善を通じて親善と平和を進めること。幸いにも多くの地域社会が私たちのサービスを必要としています。能力開発や環境プロジェクトの推進、再生可能な水やエネルギーのインフラ整備など、やるべきことはたくさんあります。持続可能な社会をつくるための取り組みに、国を超えた連携が欠かせません。私はCEDをもっと堅実で自立した組織にできるよう、誠心誠意働き続けます」

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、(財)ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

TEL：03-3434-8681 FAX：03-3578-8281
Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp

米山学友がネパールの医療向上に貢献

熊本大学で医学博士号を取得し、帰国した米山学友のアージュン・シュレスタさん（1999 - 2001 / 熊本西RC）が、母国のネパールで医科大学を設立しました。ネパールでは医療費が全額自己負担のため治療を受けられない人が多く、医師の技術レベル、医療機器などの設備不足も深刻です。こうした状況を憂えたアージュンさんは2006年、仲間の医師らと資金を出し合い、大病院を併設するチトワン医科大学を設立。これまでに210人の医師と80人の看護師が巣立っています。「きちんとした医療人を育て、患者が適正価格で先進医療を受けられるようにすることが使命。将来は、国際的に認められる専門医療センターにしたい」と、アージュンさんは語ります。



患者と接するアージュンさん(右)